

第 15 回 電磁界情報センター運営委員会 議事録（案）

1. 日 時：平成 27 年 3 月 13 日（金）15 時 00 分～17 時 15 分
2. 場 所：全日電工連会館 3 階会議室
3. 出席者：木下委員長、日和佐副委員長、衛藤委員、小島委員、原委員、
飛田委員
（事務局）一般財団法人電気安全環境研究所 尾崎専務理事（理事長代理出席）
電磁界情報センター 大久保センター所長
4. 議事次第：
 - （1）定足数の確認報告
 - （2）理事長挨拶
 - （3）【審議】第 14 回電磁界情報センター運営委員会 議事録の承認について
 - （4）【報告】平成 26 年度予算執行状況について
 - （5）【報告】平成 26 年度業務実績について
 - （6）【審議】平成 27 年度業務計画について
5. 配布資料：
 - ・運営 15-1 運営委員会 委員名簿
 - ・運営 15-2 第 14 回電磁界情報センター運営委員会 議事録（案）
 - ・運営 15-3 平成 26 年度予算執行状況
 - ・運営 15-4 平成 26 年度業務実績の概要
 - ・運営 15-5 平成 27 年度業務計画（案）
 - ・参考 電磁界情報センター運営委員会規定

6. 議事内容：

(1) 事務局からの連絡事項

事務局より、運営委員会委員の元浅野委員長が昨年 11 月にご逝去された旨、報告があった。謹んでお悔やみ申し上げる。

(2) 定足数の確認報告

電磁界情報センター運営委員会規程第 5 条第 2 項にもとづき、運営委員 7 名中、出席の委員 6 名であることから、第 15 回運営委員会は成立した。

(3) 理事長挨拶（尾崎専務理事が代理出席）

本日は年度末のご多忙のところ運営委員会にご出席頂き感謝申し上げます。委員会各位には、平素より電磁界情報センター（以下、「センター」）の業務につきまして、種々ご助言を賜っていることに対して改めて御礼申し上げます。本日は、センターの平成 26 年度の業務の執行状況についてご報告するとともに、平成 27 年度の業務計画についてご審議頂くので、忌憚のないご意見をお願いしたい。

(4) 第 14 回電磁界情報センター運営委員会 議事録の承認について

【審議結果】

第 14 回電磁界情報センター運営委員会議事録（案）について、特段の異議はなく了承された。

(5) 平成 26 年度予算執行状況について

【報告】事務局より資料運営 15-3 について説明があった。

【質疑】委員の主な発言は以下のとおり。

（委員）参加者申込者が少なく再募集した電磁波セミナーの出席者数は最終的に何人だったのか。

（事務局）募集人員 50 名に対し和歌山セミナーは 29 名、四日市セミナー 44 名であった。

（委員）出席者数が減少しているようにも見えるが、以前より関心が無くなってきているということなのか。

（事務局）関心低下ではない。問合せ件数はメディア報道に比例し全体として増加傾向にあるが、必ずしも各地域でも増えていると言えないと理解している。

（委員）解説集のメディアへの配布先として、電気新聞等業界紙もリストに入っているのか。

（事務局）現時点では入っていない。追加印刷が必要となることから次年度に送付することとしたい。

- (委員) 論文購入費用が減少したのは購入に値する論文が少なかったということか。
- (事務局) 収集する論文を精査したことと、無料で入手できた論文が多かったことが主な理由である。
- (委員長) 震災以降、電離放射線への関心は増加していると思うが、一方、相対的に非電離放射線の関心が下がっているということはないのか。電離放射線分野での経年調査の状況を言えば、当然ながら震災直後の関心は高いが、それ以降はかなり減ってきている。問合せ内容も、最初は、身体への影響が多かったが、最近では一割以下である。最近の相談内容は、家族や近所とのトラブル等、多岐にわたるが身の上相談や生活相談がほとんどという状況。また、放射線総合医学研究所の電話相談窓口でも、放射線に係わる専門スタッフでなく臨床心理士の対応で相談件数の9割は済んでおり、随分と関心や心配事が変容してきていると感じている。
- (事務局) グーグルの検索キーワード数の推移を見ても、『電磁波』というキーワードで検索している数に大きな変化は無いことから、必ずしも関心が下がっていないと思う。逆に、センターへの問合せ件数は年ごとに増加している状況にある。この背景としては、電磁波は普段は気にしていないが、それが身近な存在になった時に過去に見た所謂、危ないというメディア報道等を思い出し心配になる人が多い。身近な環境変化としては、Wi-Fi、携帯基地局、太陽光発電、電気自動車の普及が新たな心配要因として考えられる。今後も激変はしないと思う。
- (委員長) そういった新たな発生源の測定はそれぞれの業界が行っているのか。
- (事務局) 公表された関連業界での測定例も少ないことから、センターへの問合せが多いものについては、自ら測定しその結果を学会等での発表を経て、電磁界情報センターから公表している。
- (委員長) 医療関係の状況はどうか。
- (事務局) 電磁界情報センターが医療機器に関する測定例はない。
- (委員長) 診療放射線技師等の電磁波ばく露に関する関心はあるのか。
- (事務局) 我が国では非電離放射線に関する職業者ばく露規制はない。一方、欧州では2014年に職業者に対する新たなEU指令が発表され、2016年の7月1日までにEU各国でこれを国内規制として実施することとなっている。

(6) 平成 26 年度業務実績について

【報告】事務局より資料運営 15-4 について説明を行った。

【質疑】委員の主な発言は以下のとおり。

(委員) セミナー開始前後における心配度の変化で、心配だという人が約半数いるが何か理由は聞いているのか。また、なぜ不安なのか。

(事務局) セミナーの基本スタンスは『WHOの見解をわかりやすく説明します』ということになるが、心配度に変化が無かった方の多くは、そもそもWHOや国を信頼していないという意見が多く、そういった方への説明は非常に難しい。また、インターネット等で流布している「危険情報」と電磁界情報センターが提供する「科学的情報」には大きな隔たりがあることは事実であり、一回の説明では、その乖離を解消することは難しいと感じている。

(委員) 心配している人は危険情報を正確に覚えている傾向にあるが、なぜ、そのような「危険情報」をすんなりと受け入れてしまうのか不思議に感じる。人の心理として安全よりも危険情報の方がすんなり入ってくるということなのか。

(委員長) これまでのアンケート結果では、最初から安心ないし安全だと思っている人は、受講後により安全という方向に少し移動する傾向がある。これは自分の元の態度が支持されたと思って自信を持つため。それに対して最初から危険とか不安と思っている人は、安全方向に余り変化しない。これは自分の態度と反対の意見を聞かされたため、反発したり戸惑ったりするため。彼らを動かすのはなかなか難しい。一番大きく変化するのは、最初「よく分からない」とか「どちらとも言えない」と述べていた人たちである。したがってリスクが一番効果的と思われるのは、この中間的な態度層の人たちに対してであろう。

(委員) 最近、思うことは“安全”という言葉はどう使うかということ。専門家に聞いたところ、例えば1ベクレルでもリスクはあることは否定できないので安全とは言えない。よって、リスクの有無ではなく、どの程度のリスクあるのかということが重要となる。例えば、確率的に寿命が約0.001秒、縮まるリスクがあるが、その程度で気にする必要はないといった説明が望ましく、“安全”という言葉は絶対使ってはいけないということであった。

(委員長) 安全、安心というのは学術的に定義された概念ではなく、“安全”という言葉は原則的に禁止されている学会もある。海外では、例えば、リスクが低く、かつそのリスクを公衆が受け入れている場合に“安全”という言葉を使うという事例もある。つまり、かなり主観的であるということ。

- (委員) 磁界測定器を借りた人の測定場所、測定数は把握しているのか。
- (事務局) 発生源やそこからの距離を含め情報提供頂いており、現在、分析中である。
- (委員) 是非、今後も継続をお願いしたい。貸出後も「心配」という数値にあまり変化がないことが気になる。あくまでも推測となるが、貸出している測定器では測定できない高周波領域も含めて総合的にどういう磁界環境になっているのか、新たな疑問が湧いてきた人もいたのではないと感じている。

『妊婦への知識啓発検討会で作成中のパンフレットのサンプル版（未配布）』に対して委員から以下の意見があった。

- ・妊婦になったときに危ない情報に影響されることが非常に多いと思うことから、妊婦を対象とするのはとても良い取組みと思う。
- ・電磁界強度の図は妊婦の方が日常身近に使用する家電製品を記載したほうがよい。
- ・回答文がやや断定的な感がある。
- ・リスク情報はきちんと科学的にしっかり伝えなければならないが、それを言えば言うほど、言われた方はどう判断してよいか訳がわからなくなることがよくある。よって、そういう方たちには、正確性を持ったメッセージでわかりやすく伝えていくというのが大事と思う。これが非常に問題なリスクであれば、別として、原案程度のメッセージは言ってほしいと思う。
- ・医療現場に日々いると、絶対というのは、先ずはあり得ないので、『たいがい大丈夫です』『日常なものです』という言い方になってしまう。それでも心配ではっきりさせようと思えば、100%とか0%とか言う以外、方法が無く、そういう世界の話である。

【審議結果】平成26年度業実績について了承された。

(7) 平成 27 年度業務計画について

【審議】事務局より資料運営 15-5 について説明があった。

【質疑】委員の主な発言は以下のとおり。

(委員) 今年度は大きなリスクコミュニケーションの機会の予定はあるのか。

(事務局) セミナーと依頼講演会は昨年度と同様の回数を予定している。また、パネルディスカッションを行うような大規模なフォーラムは、高周波のWHOの健康リスク評価の結論が公表されない限り実施予定はない。

(委員) リニアモーターカーに関連した自治体からの依頼講演会の要請はあるのか。

(事務局) 昨年度も含め依頼の要請はない。ただし、計画沿線の中部エリア開催のセミナーでは必ず関連した質問は出ている。

【審議結果】平成 27 年度業務計画について了承された。

(8) その他

次回開催の日程は以下のとおり。

・平成 27 年 10 月 8 日 (木) 13 時～15 時

以 上